

Library and Information Science における引用文献の記載方法のより詳しい例示です。緑色は説明文です。区切り記号を強調するため、全角を用いて記載していますが、実際の記載の際には半角でかまいません。

### 1. 雑誌論文

加藤修子. 音楽分野における情報要求と図書館の利用. 図書館学会年報. 1990, vol. 36, no. 3, p. 108-120.

(著者名. 論文タイトル. 雑誌名. 刊行年, 巻, 号, 最初のページ-最後のページ.)

糸賀雅児. 情報利用における「意味」と「理解」: 「意味付与」概念にもとづく情報ニーズの再検討. Library and Information Science. 1991, no. 29, p. 1-19.

(本タイトルと副タイトルはコロン (:) で区切る)

根本彰, 三浦太郎, 中村百合子, 古賀崇. 政策文書に見る GHQ/SCAP 民間情報教育局の図書館政策. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 1999, vol. 39, p. 453-478.

(和文論文の著者の間はコンマ (,) で区切る)

Ledezma, G. ; Bejan, A. Heat sinks with sloped plate fins in natural and forced convection. International Journal of Heat and Mass Transfer. 1996, vol. 39, no. 9, p. 1773-1783.

(欧文論文の著者の間はセミコロン (;) で区切る)

Katzer, J. User studies, information science, and communication. Canadian Journal of Information Science. 1987, vol. 40, no. 3/4, p. 15-30.

(3号と4号の合併号)

### 2. 雑誌の特集記事

特集, NPM と社会政策. 社会政策研究. 2005, vol. 5, p. 7-145.

(特集のテーマ. 雑誌名. 巻, 号, 刊行年, 最初のページ-最後のページ.)

Special edition, social epistemology and information science. Social Epistemology. 2002, vol. 16, no. 1, p. 1-114.

竹内比呂也. 特集, デジタルコンテンツの進展と図書館: デジタルコンテンツの彼方に図書館の姿を求めて. 情報の科学と技術. 2007, vol. 57, no. 9, p. 418-422.

(特集中の1記事の場合、特集標題の後にコロン (:) で区切って論文名を記載)

### 3. 図書

西垣通. 基礎情報学: 生命から社会へ. NTT出版, 2004, 235p.

(著者名. 書名: 副書名. 出版者, 出版年, 総ページ数.)

上山信一，稲葉郁子．ミュージアムが都市を再生する：経営と評価の実践．日本経済新聞社，2003，285p.

(和書の著者名はコンマ (,) で区切る)

根本彰ほか編．図書館情報学の地平：50 のキーワード．日本図書館協会，2005，353p.

(著者や編者が3名以上場合，1名を残して省略してもよい)

田村俊作編著．情報探索と情報利用．勁草書房，2001，282p. (図書館・情報学シリーズ，2) .

(シリーズ名は総ページ数の後に丸括弧に入れる。丸括弧を閉じたあとにピリオド(.)をつける。シリーズ名とその番号との間はコンマで (,) 区切る)

三輪眞木子．情報検索のスキル：未知の問題をどう解くか．中央公論新社，2003，214p. (中公新書，1714) .

(文庫，新書などもシリーズとみなす)

日本の近代活字：本木昌造とその周辺．長崎，近代印刷活字文化保存会 (発行)，朗文堂 (発売)，2003，453p.

(出版社が明示されていない場合は，発行者や発売者を記載する。必須ではないが、出版地も記載している)

府川充男撰輯．聚珍録．三省堂，2005，3冊.

(分冊の場合は，冊数を記載する)

McMillan, G. K. Measurement and Control. 2nd ed., Instrument Society of America, 1994, 299p.

(版表示がある場合には、書名の直後に必ず記載する)

Hahn, T. B. ; Buckland, M., eds. Historical Studies in Information Science. Information Today, Inc., 1998, 326p.

(洋書の著者名はセミコロン (;) で区切る)

#### 4. 図書の一部

森岡倫子．“電子雑誌”．電子メディアは研究を変えるのか．倉田敬子編．勁草書房，2000，p. 173-207.

(著者名．“論題名”．書名．編者名．出版者，出版年，最初のページ-最後のページ.)

荻原幸子．“ニュー・パブリック・マネジメント論と公共図書館経営論”．図書館の経営評価：パフォーマンス指標による新たな図書館評価の可能性．勉誠出版，2003，p. 3-28. (図

書館情報学のフロンティア, No. 3).

(編者が団体著者のため省略し、代わりにシリーズ名を記載している場合)

池谷のぞみ. “第1章:生活世界と情報”. 情報探索と情報利用. 勁草書房, 2001, p. 41-90.

(図書館情報学シリーズ, 2).

(章の見出しを記載し、その図書のシリーズ名も記載している場合)

根本彰. “図書館情報学の領域と特性”. 図書館情報学ハンドブック. 第2版, 丸善, 1999, p. 1-11.

(ハンドブック中の1記事の場合。版表示あり。)

“情報学”. 図書館情報学用語辞典. 第2版, 丸善, 2002, p. 101.

(辞典中の1項目の場合)

Doets, K. “5 Linear resolution”. From Logic to Logic Programming. MIT Press, 1994, p. 93-120.

## 5. 翻訳書

Brown, J. S. ; Duguid, P. なぜITは社会を変えないのか. 宮本喜一訳. 日本経済新聞社, 2002, 363p.

(原著者名. 翻訳書名. 翻訳者名と役割. 翻訳書の出版者, 出版年, 総ページ数.)

Brown, J. S. ; Duguid, P. The Social Life of Information. Harvard Business School Press, 2000, 320p. (日本語訳:なぜITは社会を変えないのか. 宮本喜一訳. 東京, 日本経済新聞社, 2002, 363p.)

(翻訳書ではなく原書を引用する場合)

## 6. テクニカルレポート, 報告書

慶應義塾大学文学部図書館・情報学科. 「情報」概念をめぐる基礎的検討: 図書館・情報学分野における情報研究の基盤として. 平成4年度慶應義塾学事振興資金による研究(共同研究): 「情報」概念の類型化報告書, 1993, 135, 63, 10p.

(著者名. 報告書名. 報告書種別, 刊行年, 総ページ数.)

岸田智宏, 小沢慎治, 樫村雅章. “初期印刷本活字のデータベース化システム”. 大英図書館所蔵初期印刷本のデジタル画像作成と書誌学的比較校合研究. 平成13年度～平成14年度科学研究費補助金基盤研究(A)(2)研究成果報告書, 2003, p. 35-77.

(報告書中の1論文の場合)

Fainchtein, R. An Instructional Adaptive Mesh Refinement Code for Unstructured Grids. National Aeronautics and Space Administration, 1996, NASA-CR-4718,

NAG5-2652, 33p. (Microform), Available from the NASA Center for AeroSpace Informtaion.

(レポート番号がある場合は出版年の後に必ず記載すること。媒体表示と入手先を記載している。)

## 7. 学位論文

Altman, S. J. Behavior of nutrients in groundwater of an agricultural valley and its riparian zone. University Park, Pennsylvania State University, 1994, Ph. D. thesis. Available from University Microfilms International, Order no. 9504164.

(著者名. 論文名. 大学名, 学位授与年, 学位請求論文の種類. この例では必須ではないが入手先を記載している。)

## 8. 会議録、会議予稿集の1論文

安形輝, 上田修一. “『時事新報』初期の社説の著者推定”. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集 2007年度. 東京, 2007-11-10, 三田図書館・情報学会, 2007, p. 57-60.

(著者名. “論題名”. 会議報告書名. 会議開催地, 会議開催期間, 会議主催機関名. 出版者, 出版年, 最初のページ-最後のページ.) (この例では会議報告書名中に会議主催機関名があるので会議主催機関名を省略)

Jenkins, D. et al. “It takes a village : Student chapter survival and success” . Proceedings of the American Society for Information Science and Technology. Long Beach, 2003-10-19/22, John Wiley, 2005, vol 40, issue 1, p. 551-552.

(会議報告書の出版者が会議主催機関とは別におり、その公開日が会議開催年とは異なる場合)

## 9. ウェブ資料

Tamura, S. ; Miwa, M. ; Saito, Y. ; Koshizuka, M. ; Kasai, Y. ; Matsubayashi, M. ; Ikeya, N. Information sharing between different groups : A qualitative study of information service to business in Japanese public libraries. Information Research. 2007, vol. 12, no. 2, paper 306. <http://InformationR.net/ir/12-2/paper306.html>, (accessed 2008-01-20).

(電子ジャーナルで、ページ付がないので論文番号 (paper306) と入手先の URL を記載)

Van de Sompel, Herbert ; Beit-Arie, Oren. Open linking in the scholarly information environment using the OpenURL. D-Lib Magazine. 2001, vol. 7, no. 3, doi : 10.1045/march2001-vandesompel.

<http://www.dlib.org/dlib/march01/vandesompel/03vandesompel.html>, (accessed 2005-05-23).

(電子ジャーナルで、ページ付も論文番号もない場合、代わりに DOI と入手先を記載)

Delsey, T. Functional Analysis of the MARC21 Bibliographic and Holdings Formats. Library of Congress , 2002- , <http://www.loc.gov/marc/marc-functional-analysis/functional-analysis.html>, (accessed 2005-04-19).

Suggested Student Project: Identification of Medieval Scribal Handwriting. <http://www.cl.cam.ac.uk/users/jgd1000/scribes.html>, (accessed 2005-05-15).

総務省編. 情報通信白書. 平成 19 年版, 2007.  
<http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/whitepaper/ja/h19/index.html>,  
(入手 2008-02-11).

smine. “欧州大学協会 OA ワーキンググループ, OA 勧告を更新”. Open Access Japan. 2008-4-7. <http://www.openaccessjapan.com/2008/04/oaoa-1.html>, (入手 2008-05-01).  
(ブログの記事、著者名(smine)はハンドルネーム、更新日付を記載)